

# 播種時処理専用剤



殺虫殺菌剤

殺虫剤分類 2B

殺菌剤分類 P2

農林水産省登録  
第 22549 号

# ファースト オリゼ<sup>®</sup> プリンス<sup>®</sup> 粒剤

フィプロニル・プロベンゾール粒剤

プリンス<sup>®</sup>はBASF社の登録商標



**播種と同時にいもち病・害虫の<sup>ダブル</sup>W防除。**

**ファーストオリゼプリンス粒剤10の特長**

- 経済性** — 播種時に処理するため、こぼれ落ちがなく、薬剤が無駄になりません。
- 効果** — 均一に処理されるため、撒きむらがなく、薬効が安定します。
- 省力性** — 忙しい田植時の労力を軽減できます。



播種と同時にいもち病・害虫のW防除。

# ファーストオリゼ<sup>®</sup>プリンス<sup>®</sup>粒剤



●成分：フィプロニル………1.0% プロベナゾール………20.0% 人畜毒性：普通物※

※毒劇物に該当しないものを指している通称

## ファーストオリゼプリンス粒剤10の特長

- 1 播種時処理で水稻の主要病害虫の同時防除が可能**  
播種時処理により水稻の主要病害虫であるいもち病、イネミズゾウムシ、ウンカ類、コブノメイガ等を同時に防除できます。
- 2 高い省力性**  
播種時処理で主要病害虫に対して長期間にわたって高い効果を示しますので、省力的、経済的です。
- 3 ユニークな作用性**  
いもち病防除剤「ファーストオリゼ」は植物の病害抵抗性を誘導して高い防除効果を発揮する抵抗性誘導剤で各種薬剤耐性菌にも有効です。「プリンス」はこれまでどのグループにも属さない、まったく新しい基本骨格をもつ殺虫剤で、半翅目害虫のウンカ類、甲虫目害虫のイネミズゾウムシなど主要な水稻害虫に対して低薬量で優れた効果を発揮します。

## 適用病害虫と使用方法

作物名	適用病害虫名	使用量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	フィプロニルを含む農薬の総使用回数	プロベナゾールを含む農薬の総使用回数
稲 (箱育苗)	いもち病 白葉枯病 もみ枯細菌病 内穎褐変病 穂枯れ(ごま葉枯病菌) イネミズゾウムシ ウンカ類 ニカメイチュウ コブノメイガ イネツトムシ イネドロオイムシ イネクロカメムシ	育苗箱 (30×60×3cm、 使用土壌約5ℓ) 1箱当り 50g	は種時 (覆土前)	1回	育苗箱の床土に 均一に散布する。	1回	2回以内 (移植時までの 処理は1回以内)



## 使用上の注意

- 使用量に合わせ秤量し、使いきって下さい。
- 本剤処理後の低温で生育抑制を生じる恐れがあるので温度管理に注意し、適切な育苗につとめて下さい。
- 本剤の処理により、軽度の初期生育遅延や葉の黄化を認めることがあるが、その後回復するので通常の管理を維持して下さい。
- 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じやすいので、代かきはいないに行い、移植後に田面が露出したりしないよう水管理に注意して下さい。
- 本田が砂質土壌の水田や漏水田、未熟有機物多用田の場合は使用を避けて下さい。
- 移植後、低温が続ぎ、苗の活着遅延が予測される場合は使用を避けて下さい。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病虫害防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。
- 誤食などのないよう注意して下さい。誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせて下さい。
- フィプロニル剤にはフェノバルビタール製剤の投与が有効とされています(動物実験で報告)。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けて下さい。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、不透水性防除衣などを着用するとともに保護クリームを使用して下さい。作業後は直ちに身体を洗い流し、うがいをするとともに衣服を交換して下さい。
- 作業時に着用していた衣服等は他のものとは分けて洗濯して下さい。
- かぶれやすい体質の人は作業に従事しないようにし、施用した作物等との接触を避けて下さい。
- 夏期高温時の使用を避けて下さい。

魚毒性等…水産動植物(魚類)に影響を及ぼすので、本剤を使用した苗は養魚田に移植しないで下さい。  
 保 管…直射日光を避け、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管して下さい。

- 使用前にラベルをよく読んで下さい。
- ラベルの記載以外には使用しないで下さい。
- 本剤は小児の手の届く所には置かないで下さい。
- 使用後の空袋は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう、適切に処理して下さい。
- 防除日誌をつけましょう。

お問い合わせ／ご注文は